

## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和3年度・第2回）議事概要

日 時 令和3年（2021年）11月10日（水）14：00～15：30

場 所 市役所3階 特別会議室

出席者 <まちづくり協議会>

（対面参加者）

仁川まちづくり協議会 綿 昭人会長  
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会 川島 昭会長  
宝塚市光明地域まちづくり協議会 須藤 実枝会長  
宝塚市美座地域まちづくり協議会 梅村 諭代表  
安倉地区まちづくり協議会 岡本 康夫会長

（オンライン参加者）

宝塚市良元地区まちづくり協議会 中 義昭会長  
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 加藤 富三会長  
宝塚市西山まちづくり協議会 久保田 洋一会長  
まちづくり協議会コミュニティ末広 豊田 茂男代表  
宝塚第一小学校区まちづくり協議会 中谷 修会長  
逆瀬台小学校区まちづくり協議会 石谷 清明会長  
宝塚市すみれが丘小学校区まちづくり協議会 押条 雅英代表  
宝塚小学校区まちづくり協議会 喜多 毅会長  
売布小学校区まちづくり協議会 笹田 光治会長  
小浜小学校区まちづくり協議会 藤本 真砂子会長  
中山台コミュニティ 畑中 康治会長  
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会 北川 和人代表  
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会 三島 基道会長  
宝塚市西谷地区まちづくり協議会 二井 久和会長

<その他>

市民交流部 上田部長、藤本室長  
市民協働推進課 新城課長、岡田係長 他  
宝塚NPOセンター 馬越氏  
宝塚市社会福祉協議会 大関氏

### 議事概要（要旨）

#### 1. 地域活動におけるデジタル活用について

市民協働推進課より、デジタル活用状況等アンケート集計結果について説明後、デジタル活用に関して他のまちづくり協議会に聞きたいことなどについて、意見交換等を行った。意見交換の概要は以下のとおり。

- ア パソコンは個人宅に設置しているのか、拠点に設置しているものなのか。また、それを扱う担当などを決めているのか。他のまちづくり協議会に聞いてみたい。
- イ 専用のパソコンを準備しており、Wi-Fiもある。パソコンに詳しい方が何人かいるのでその方を担当としてご指導いただきながら進めている。若い方はパソコンや携帯に詳しいので、その方を中心に実施すれば、特にZoomに関してはそんなに難しくないと思う。
- ウ 事務室にパソコン1台設置している。また、各関係者が個人のパソコンを使ってい

- る。
- エ 現段階では個人のパソコンを利用している。また、Wi-Fiも社協や宝塚NPOセンターにお借りしてやっている。近い将来Wi-Fi環境を整えていきたいと考えている。
  - オ (市) アンケート等で必要と思われるものを例示したが、他に何か必要な物があればご意見いただきたいがどうか。
  - カ 専用のパソコンを購入するのにまちづくり協議会補助金を使用できるのか。
  - キ (市) パソコンも対象経費に認められている。備品を購入する際は事前に地域担当にご相談いただけたらと思う。
  - ク 専用の会館がなく、パソコンやWi-Fi環境もないというところもある。借り物や自前のもので実施している。講演会や勉強会は、社協や宝塚NPOセンター主催で実施している。また、ホスト役の方の専用の勉強会を宝塚NPOセンターや社協でされている。その勉強会にいち早くまち協のメンバーが参加したことで、全体のことを把握することができたので、その勉強会は非常に役に立った。
  - ケ まちづくり協議会でWi-Fi環境を整えることはすばらしいことだと思うが、各まち協で費用をかけて行うことなので、コロナ終息後もいかに活用できるかを考えておく必要がある。この点を十分に考えた上で導入すべきかと思う。

## 2. ワークショップ改め情報交換会の実施について

市民協働推進課より、資料に基づき情報交換会の内容の案について説明後、その内容等について意見交換を実施した。

意見の概要は以下のとおり。

- ア オンライン会議での意思疎通が難しいと聞いていることがある。現在実施されているまち協の状況をよく勉強させていただき、今回の情報交換会でメリットを学ばせていただけたらと思う。
- イ 感染状況が悪化した場合、情報交換会の実施はどうなるのか。
- ウ (市) 感染状況悪化により兵庫県の対処方針で外出自粛という方針が出てしまった場合には中止せざるを得ないと考えている。2月の感染状況を見て判断することとなる。
- エ 会議について、対面で実施できるに越したことはない。しかし、拠点となる部屋がせまいため、定員の半分とすることを加味すると全員が集まらない。だからオンライン会議をせざるを得ない状況になっている現状がある。ただ、コロナをきっかけに活用を始めたツールを今後どのように活用していくかが大事。オンラインじゃないと会議に参加できない方もいる。オンライン会議を広めていくと徐々に若い方も参加してくれるのではないかと期待もある。最終的な理想としては、市民を対象にしたオンラインの行事を行うこと。今後、こういったことをいかに企画していくかが大事だと思っている。
- オ 会議室が使いにくいとき、Zoomを活用して会議を実施したことがある。ただ、やはり顔を合わせることが大事ということで、10月からはできるだけ人数は絞って対面の会議を実施している。地区の行事も10月からは三密を避けることを前提に対面で実施した。高齢の方が多いのでたまには顔を合わせるのがよいと思う。
- カ 情報交換会については、緊急事態宣言が発令されていても各まち協で環境が整っていればオンラインで開催できる可能性があるのではないかと。ただ、オンラインで参加できないまち協もあり、参加できないことについても様々な理由があると思う。その点を丁寧に聞いていただきながら進めていってもらえたらいいのではないかと。と思う。
- キ 若い世代と高齢者の世代の接点を作っていくことが必要。高齢者世代は集まって喋るのが楽だが、何とかしがみついても勉強して、若い方とオンラインで話せるようにすることができれば、将来、またコロナのような状況になっても耐えていける。まち協の若いメンバーに助けてもらうか、社協や宝塚NPOセンターの出張研修を

利用して指導いただく必要がある。20のまち協のレベルがそろうことが必要。どれくらいのレベルにあわすのがいいのかなど、検討いただけたらと思う。

- ク 情報交換会の参加者数について、各まちづくり協議会から1名ないし2名となっているが、より多くの方に、まち協の拠点から参加又は自宅からも参加できるような形とするのはどうか。こうした形で参加可能にすることで、若い方に対し、まちづくり協議会でもオンライン会議を行っているということを知ってもらいたい。
- ケ (市) 人数は、会場の都合上、対面参加の方を想定して人数をしばったが、オンラインでの参加人数については幅を広げたいと思う。また、参加人数が増えることによる質疑応答の実施方法については、検討する。加えて、当日都合が悪い方を考慮し、Zoomの録画機能を利用して後日ポータルサイトに掲載するなど考えられる。座長・副座長と協議しながら検討したい。
- コ コロナがおさまってもオンライン会議は必要かと思う。自宅から参加できるのでお忙しい方も参加しやすい。Zoomは無料のアカウントもあるので、導入を検討するために一度実施されるのもよいかと思う。また、LINEを使って会議をすることもある。自治会では、携帯電話やパソコンでチャットワークというソフトを使って自治会報を編集したりもしている。集まることも大事だが、オンライン会議でやることも大事。オンライン会議は疲れるが密度の濃い会議ができるのではないかと考えている。
- サ 私の考え方としては、オンライン会議は否定しない。ただ、本来はやはり対面が主体だと思う。あくまでオンライン会議は補助的なものだと考えてもらえたらと思う。やはり対面の会議に勝るものはないかと思う。参考意見として考えていただけたらと思う。
- シ (市) 情報交換会については賛成いただいていると認識している。また、オンライン参加者については人数制限をせずに実施したいということだったと認識しているので、座長・副座長と協議の上、12月の代表者交流会で改めて本日のご意見を反映した情報交換会の内容について提示させていただく。
- ス 代表者交流会だけではできるだけ対面でやっていただきたいと思います。

### 3. 新型コロナウイルス禍における地域活動について

現在の地域活動状況と今後の活動について、意見交換を行った。

意見の概要は以下のとおり。

- ア 各まち協がコロナ前の状態に戻すためにかなり努力されている。どの地区がどの程度の疲弊状態にあるのか市民協働推進課の方に知っていただきたいと考えている。今後、コロナがある程度収束するに伴い、まち協のイベントも再開していく。新市長にぜひ地域に来てほしいという声もよく聞いている。
- イ (市) 本来であれば早々に地域に出向きたかったが、コロナの感染状況を加味して市長も地域にうかがうことができなかった。外出自粛が解けているこのタイミングで、市長が地域にうかがって皆様との交流を図れたらと思う。具体的には、後日、市民協働推進課から各まちづくり協議会に対して文書等で照会し、ご提出いただいた候補日程に基づいて調整し、各まち協に訪問させていただけたらと思う。ただ、一方で、まだ地域に来てもらうのは早いなどというご意見もあるかと思うので、おっしゃっていただきたい。
- ウ 11月に対面のイベント・会議を再開していく。市長訪問についてもぜひ来ていただけたらよいと考えている。
- エ 徐々に活動を再開している。11月28日にネットワーク会議、学校園の安全対策委員会なども予定している。来年3月5日には、わいわいフェスタを小規模に再開しようとしている。
- オ 会議はすべてオンラインと対面の併用で行っている。役員はZoomでの会議に慣れていっている。まち協にIT推進担当がおり、自治会対象にオンライン会議のやり方の講座を開いた。オンライン会議はこれからも欠かせないという考えで進めている。行事は11月から感染防止策を取りながら再開していく予定。

- カ 今年の6月、千葉県で小学生を巻き込む事故があったと思うが、それを受けて宝塚市でやった通学路の安全点検について、各まち協や地域の方はどれだけ参加されているのかをお聞きしたい。
- キ 8月に小学校のPTAなどで点検し、4箇所ほど危険個所が分かった。
- ク うちのまち協でも安全点検を実施した。
- ケ オンライン会議を活用することによって4月以降会議ができています。色んな世代の方がオンライン会議に参加している。実際に会議室に来てもらってつなぎ方などをレクチャーしたりしながら、対面との併用で実施できている。また、まちづくり計画に関して具体的な対話を市民協働推進課を通じて進めることができている。その内容の一つとして交通安全に関するものがあり、小学校や中学校のPTAを巻き込みながら交通事故をいかに減らしていくかということをお話し合っている状況である。
- コ 通学路の安全点検は、毎年、まち協の役員、PTA、宝塚警察署、学校、教育委員会や防犯交通課などと安全点検している。
- サ アトム110番という制度があり、それを復活させていこうと努力している。逃げ込んだら身を守ってもらえるということを知ってもらうことが必要。
- シ 活動に従事される方が感染対策の意識をもつことで、参加者も感染対策を意識するような雰囲気となるように実施している。10月23日には、地域ラウンド体験という親子連れでゲームをする計画を立てた。屋外実施を基本として、事前申し込みで100人くらいの申込があった。今回は2回目となったが、イベントができるときは実施したほうがよい。実施できないときは開催をやめたらよい。できるだけ実施するようという姿勢で進めている。
- ス (市) 市長訪問の件について、文書で照会する形でよろしいか。
- セ (異議なし)
- ソ 通学路の安全点検については、発言された方のところでは地域と一緒に参加しているとなっているが、教育委員会の資料を見たところ、対策メンバーの中に地域が入っていない。なぜかと聞いたら、地域によって協力しているところとしないところがあるから地域は入っていないという話であった。このことから、安全点検にどれくらいのまち協が参加されているかということをお聞きした。行政内で縦割りという面がある。地域を巻き込んだ体制作りが市で必要かと思う。今後も各地域の関わりについてその都度情報をいただきたいと思う。

#### 4. 市民協働推進課からのお知らせ

以下(1)について、宝塚NPOセンターより、資料を用いるなどして説明を行った。

##### (1) 市民活動促進支援事業のお知らせ

#### 5. その他

市民協働推進課より、「地域ごとのまちづくり計画」を協働で推進する仕組みの説明及び協働の取組推進担当次長の紹介をまちづくり協議会の定例会等で行うことについて、定例会等におうかがいする日程の候補日を提供いただけないまちづくり協議会は、準備ができた段階で市民協働推進課までご連絡いただきたい旨、お伝えした。

#### 6. 今後の日程

意見交換の結果、今回は対面で実施することとなった。

次回日時：令和3年(2021年)12月8日(水)14:00~15:00

場 所：未定

以 上